

魅力あるまちづくり若者会議（第2回）会議録

日 時 平成26年8月28日（木）午後6時30分

場 所 市民会館42号会議室

参加者 コーディネーター 東京成徳大学 三枝准教授

会員 10人参加

主催者 政策情報課長 事務局担当2人

1 開会 事務局

- ・開会あいさつ及び配付資料の確認

2 会長あいさつ

*前回欠席会員 自己紹介

3 コーディネーターあいさつ及び講義

- ・資料に基づき講義

4 フリーディスカッション

会長

前回の話と、今回のコーディネーターの話を踏まえて、各自思ったことがあったら発言してもらいたい。

コーディネーター

中野市にも、ソーシャルビジネスを行っている例があるのではないだろうか。農業では六次産業化と言うのは数年前から言われている大きなテーマであり、工夫をして既にやっている例が中野市でもあるのでは。

会員

所属している農協青年部長丘支部では大豆を栽培し、大豆を使ったプリンやミソを作って販売しているが、商業化している団体はそれほど多くないと思う。

会員

たかやしろファームでは、ブドウを栽培しワインを製造している。科野では、リンゴ農家がリンゴジュースを作り、モンドセレクションに出して金賞を貰ったという方もいる。後は、にんにくファームという法人が、遊休農地を借りてにんにくを栽培し、無臭ニンニ

クとして販売し、それがサプリメントとなって販売されていると聞いている。

コーディネーター

今の話のように、六次産業とか大上段に振りかざして言わなくても、実は、色々ところで工夫を初めているところがあると思うので、あまりソーシャルビジネスを難しく考えなくてもいいと思う。

ただ、視点として、ただ農作物を栽培して、それを売るだけではなく、付加価値を付けて販売するという発想は大事。例えば、農作物の販路、売り先は、農家が自分で探すのですか？

会員

農協青年部では、農協のいきいき館や、自分たちが運営している直売所で販売しているほか、東京都三鷹市の農協青年部と繋がりががあるので、農協祭の時に自分達で作った農産物を持って行き販売している。農協本部できのこ汁を販売している時に、一緒に農産物を販売してもらったりしている。

コーディネーター

そういうことなら、既に色々なことが始まっていると言える。にんにくファームというのは、休耕地を使っているということですか？

会員

遊休荒廃地をメインに使って、どんどん増やしています。

コーディネーター

使われていない畑を利用し、事業として成立しているというのは、こじつけだけど、ソーシャルビジネスと言える。バラとかはどうですか？

会員

「食べられるバラ」というのがあるが、サプリやお酒にしたり、ケーキにしたりしている。去年、青年会議所でバラのスイーツコンテストを行い、優秀作を商品化して市内の結婚式場で販売している例がある。

コーディネーター

需要がどの程度、確保できるかというのが大事になる。バラのイベントがあり、そこに人が集まるのであれば、バラが仕事になる。ソーシャルビジネスに繋げることもできるのかもしれない。

会員

ぶどうは、6月に房切りと言う忙しい作業があるので、産業公社やシルバー人材センターにお願いしてお手伝いさんを派遣して貰っている人も中にはいます。

会員

それは高齢者の方の雇用に繋がっているものですね。以前、小布施町のまちづくりの中心的女性の方が、まちづくりに必要なこととして、ボランティアだけではダメだと言っていた。その方が、ボランティアを集めてまちづくりのイベントをやってみたが、続かなかったとのことだった。利益からさらに投資しないと、次に続かない。この話はソーシャルビジネスに繋がることだと思う。アイデアは今浮かばないけど、そういう要素を農家に組み合わせて何かできないかなと思う。

コーディネーター

ある程度利益を生んでいくような仕掛けを最初から意識して作っていかないと、継続性を保つことができない。小布施の場合は、どういうことをやったのですか。

会員

私が聞いたのは、行政が出資したまちづくりのための会社というのがあるらしく、株式会社のような要素を取り入れて、色々な仕事ができるとのこと。例えば、最初は農業の開発に力を入れていたが、小布施町は高齢者が多い為、今は、在宅介護支援もしている。これも小さなソーシャルビジネスと言えると思い、中野にもそういうのができればと思う。

コーディネーター

難しいことではあるが、隣の町ができて、中野でできない理由はないと思う。

会員

全く利益云々とか関係なく、ただ個人的に生活をしていて困ったことがあって、子供が休みの日になると、外に連れて行けという。建物があるところに行けばお金がかかるから、中々連れて行きづらいが、行きやすいのは小布施のハイウェイオアシス。金がかからないし、広いし、車が来なくて安全だから頻繁に連れて行く。しかし、雨の日は行けない。雨が降った時に、子どもを連れて行ける場所が中野にあれば、小さい子どもがいる家族は助かると思う。それがビジネスになるかはわかりませんが。

コーディネーター

自治体によっては、子どもを育てている若い世代の親にターゲットを絞って、色々なサ

ービスを提供することに力点を置いているところもある。要は、現在、高齢化と言われている一方で、若い人達に来てもらうことによって、色々なプラスの面が出るから、子どもを育てやすい街にするとっている。子どもが安心安全に、お金が余りかからずに遊びやすい環境を整備することをテーマに入れると、他にも関連で出てくる。

これから子育てをする若い世代としては、色々な制約条件があるにしても、どこに住んでも良いとなると、やはり子育てに関して一番メリットがあって、育てやすいところに住んで、生活したいというのが、ひとつの動機づけになると思う。

高齢者も同様に介護サービスが十分受けられるということが、動機づけになるかもしれない。というのは、世の中には、高齢者が来て貰っては困るという自治体が結構ある。神奈川県でも、老人ホームを建築することによって、周辺から高齢者ばかり集まって来られても、税収が上がる訳でもないし、コストがかかって困るという動きが一時あった。

会員

中野は色々な施設があるが、点在していて、一か所に集中していない。自動車で移動する人が多いから、今はそれでもいいが、新幹線が開業しても中野は通過するだけ。小布施は駐車場に止めれば歩いて街中を見て回れるという利点があるから、観光地としても成り立って行けると思うが、中野はいろいろ施設があるがアクセスが悪いのが人が来ない理由のひとつだと思う。

コーディネーター

点在しているというのは、歴史的に点在しているのか、わざと点在させたということですか。

会員

点在させた訳じゃないと思うが、ゆかりの地とか、公園があるからそこに作ったとかいうことでは。

例えば、中野インターを降りてすぐのところに、農作物を売るオランジェという施設がある。県外でも有名で、多くの人買いに来ていて、これはアクセスがいいからだと思う。それに乗じて、農協がいきいき館を新しく作ったが、オランジェ程集客できていない。その理由の一つにオランジェよりアクセスが悪いということもあると思う。

コーディネーター

交通アクセスは、人を集めるという意味では、重要な要素のひとつである。とはいえ、点在している施設を集約するというのは難しい。

会員

先ほど話が出ていた、休みの日に、子どもをどこに連れて行くかと言うのは私も悩んで、やはり、同じく小布施のハイウェイオアシスに良く連れて行った。あの公園は芝生広場や噴水があり、水遊びができる。一本木公園は、一応、池はあるが、汚くて、そこで子どもが水遊びできるような場所ではない。一本木公園は町の中心にあるのに、子どもが遊べる設備が充実していない。

バラまつりだけではなく、もう少し地域に住んでいる人たちが、子どもをそこに連れて行き、半日でも一日でも遊べるような公園にするよう、目を向けて貰えたら嬉しい。

コーディネーター

話が飛んでしまうかもしれないが、例えば、昔流の考え方で、東京オリンピックにあわせて首都高速や東名高速、新幹線を作った。要するに大きなイベントのためにインフラ整備を一生懸命やったという例がある。何か大きなイベントをやるのであれば、それに併せて周辺環境整備をやっていこうという発想があってもいいと思う。目的を持った投資だと思えば、必要なことになる。その環境整備によって、子育て世代の人達がやってくるとそれも資源になる。ステップを踏んで長い目で見て投資していかなければならない。

ソーシャルビジネスの話題から今日は入ったから、ビジネス性という話になるが、今の話は行政としての投資をどうするかという話だと思うので、ある意味、直接的なビジネスではなく、行政主体として、成長していく投資をどうするかという発想に切り替え、重要な事業の継続性や投資の費用対効果をいかに出すかと考えて行ったら、決して全然違う発想ではないと思う。民間ではなく、行政が発想を変えるというのもテーマだと思う。

コーディネーター

中野は文化や歴史があると思うが、そのアピールが上手ではないように思う。

会員

東山のお寺も京都の清水寺の親戚関係と言われてますし、松川のお寺（南照寺）も善光寺と同等の関係であったり、深沢の十三崖もあるけど、アピールしている感じがあまりしない。この十三崖も戦争の武器庫として使おうとしていた。

コーディネーター

天領だったのだから、探してみると結構あると思う。

会員

十三崖ももう少し整備したら、人が行くと思う。あと、文化公園の芝生グラウンドも使い方しだいで、もう少し人が来ると思う。

コーディネーター

きちんとしたウンチクを聞けたり、わかったりすると、そのモノに対する見方や味わい方が変わる。いいレストランに行って「〇〇産の〇〇です。」と言われると、美味しく感じたりする。料理に例えると、料理した人が、どれ程こだわって作ったかというのが、対価や感謝に繋がる。

会員

学生時代、茨城県や栃木県など色々な地域の出身の友達がいたので、その人たちに中野市のことを説明して、さあ、ここに来たいか？という話になった。私のプレゼンテーションが悪かったのか、余り乗り気になってもらえなかった。中野にも城跡があるからと思い、城マニアで歴史好きな担当教授に相談したら、地域活性化に関わっている先生というものもあって、色々教えて貰った。

例えばお寺があって、その歴史を説明する石碑があるというのは大事であるが、その背景に、どのようなストーリーがあったのか。先ほどの料理の例で言えば、作り手が一生懸命作った食材を使った料理だから食べたいのと一緒に、歴史的な背景があって、建てられたモノであれば人は来る。中野にそういうのはあるのかと教授に聞かれた時に、何も答えられなかった。

中野にも探してみればあるのかもしれないと思っている。前回音楽のことを話した方がいたが、故郷を作詞した高野辰之の背景を追って行って、その上で、博物館があるということ色々な人に知って貰えれば良いと思う。背景があって、それを押していけるなら、観光の要素になるのではないか。

コーディネーター

今日は、何かを考える時に、ソーシャルビジネスの要素もあるということ共通認識にしてほしいと思って話をした。皆さんから色々な考え方や課題が出てきているので、今後繋げていけると思う。

(事務局) 今後の日程及び SNS の説明

終了 8時55分